



定時総会をおえて

～令和8年度の歩みとともに～

柳井市白壁の町並みを守る会会長

木阪 泰之

このたび、令和8年度柳井市白壁の町並みを守る会定時総会を無事開催することができました。ご出席いただきました会員の皆様、そして日頃より本会活動を温かく支えてくださっております地域の皆様に、心より御礼申し上げます。

本年度の活動指針は、「増益(ますます)、白壁。小さくとも、志をつなぐ。白壁を未来へ」です。人口減少や高齢化など、地域を取り巻く環境は決して容易ではありません。しかし、そのような時代だからこそ、私たちは白壁の町並みに息づく暮らしや文化、人と人とのつながりを、次の世代へ丁寧につないでいきたいと考えております。

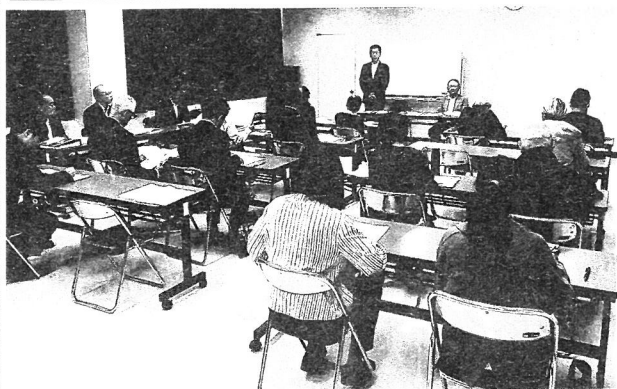
そのような中、今年度に入り新たに4社(者)の皆様にご入会いただきました。町並

第七号

柳井市白壁の町並みを守る会
事務局(武居弘和)
TEL 090-7139-7319

感じております。

また今回の総会では、初めてご出席いただいた会員様からも積極的なご意見やご提案を頂戴し、世代や立場を越えて率直な意見交換ができたことは、非常に意義深い時間となりました。「守る会」が単なる保存団体ではなく、これからの白壁を共に考える場へと着実に歩みを進めていることを実感しております。



また、長年にわたり本会の事務局業務を支えてくださった皿田さんに対し、改めて深い感謝を申し上げます。見えないところで数多くの調整や事務を担っていただき、本会活動が円滑に継続できたのは、まさに皿

みに関心を寄せ、この場所の未来に想いを重ねてくださる方々さらには生徒さんを含む学校関係者の皆様とのつながりも広がっていることを、大変心強く



田さんの献身的なお力添えがあったからこそです。長年にわたるご尽力に、心より感謝申し上げます。そして、令和元(2019)

年2月の当会設立40周年記念事業を契機に始まった、青森県弘前市の皆様との交流も、本年夏の第35回柳井金魚ちようちん祭りにおいて、ある意味いよいよ一つの「スタートライン」に立とうとしております。

柳井金魚ちようちんのルーツとされる「金魚ねぶた」のご縁が、地域と地域、人と人をつなぎ、新たな文化交流へと発展していることに、大きな喜びを感じると同時に、身の引き締まるような責任も感じております。

柳井金魚ちようちんの始祖とされる熊谷林三郎さんは、この白壁の町並みにあった「さかいや」にて、蠟や染料などを扱い、北前船を通じて全国を相手に商いをされておりました。そうした柳井商人のDNAを受け継ぐように、金魚ちようちんがこの白壁の町並みに、いつの時代も灯りをともし続ける存在であつ

てほしい——そして、その灯を次代へ丁寧にバトンタッチしていける会でありたいと強く念じております。

今、自分たちが身震いするほど大きなステージの中に立たせていただいていることに、深い感謝の念を抱いております。

白壁の町並みは、決して大きな組織や派手な活動だけで守られるものではありません。一人ひとりの静かな想い、小さな実践の積み重ねこそが、未来への道筋になるのだと思います。これからも皆様と共に、白壁の町並みの灯を絶やすことなく、丁寧に歩みを重ねてまいります。今後とも変わらぬご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

みんなで飾ろう七夕飾り

中本英宏

今年も柳井市の白壁の町並みに子ども達の想いの込められた短冊が飾られました。

毎年恒例となりました「七夕飾り」六月二十八日に市内の保育園の子ども達の夢を綴られた七夕飾りを、柳井中学校の生徒十四名のボランティアと、柳井市白壁の町並みを守る会が協同し飾りつけを行いました。

例年白壁の町並みでの展示をしていました



飾付作業後の記念写真

が、今年度より市内二施設「柳井市町並み資料館」「やない西蔵」へ変更となりました。二施設ではたくさんのお園児の家族が来場し、いつも以上に華やかな雰囲気、とても温かい空間を演出していました。

「お母さんいつもありがとう」

「ぶどうをいっぱい食べたいな」



資料館での作業風景



西蔵での作業風景

などかわいい短冊もあれば

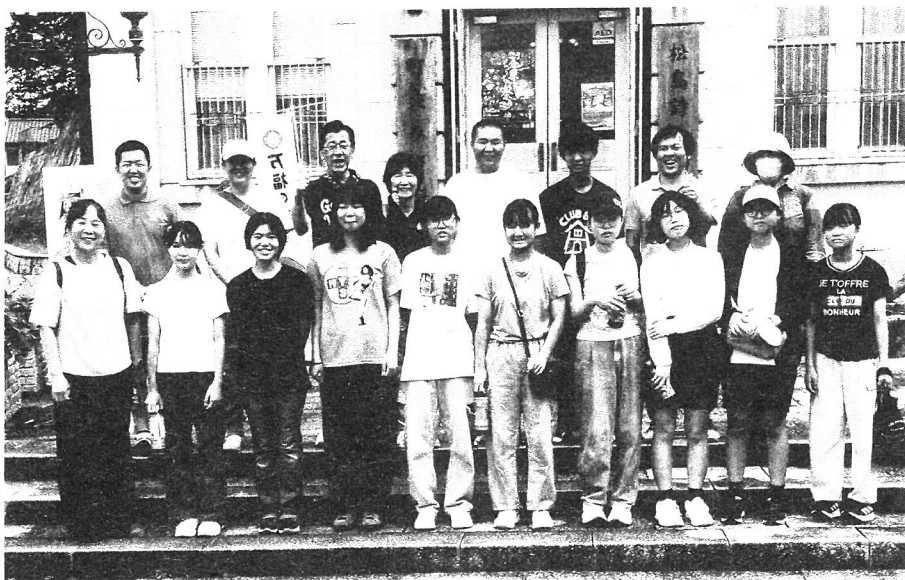
「書道八段受かりますように」

みたいな真剣な短冊もありました。

今年度は、一般の方、観光客の方も想いを綴ることができ、書いている様子を見る場面もありました。

七夕飾りを楽しんだあとは、両施設の間にある柳井市白壁の町並みで、柳井金魚

ちようちゃんが訪れた方々をお出迎えしてくれ、散策を楽しんでいる様子がとても印象的でした。



撤収作業後の記念写真

2週間ほどの行事ですが、この季節を心待ちにしているたくさんの方がいる。そのことも改めて感じる事が出来た、貴重な2週間でもありました。終わりになりますが今年短冊を書いた子ども達もいずれ大人になり、自分の子どもとこの短冊を見る日

が来るかもしれません。
私の短冊には

「子ども達が柳井市でこれからたくさんのお
い出ができますように」
と綴らせて頂きました。

最後に今回の七夕飾り及び撤収にご協力
いただいた「柳井自遊倶楽部」、「柳井縞の
会」、「近隣住民の皆様」、「市内高校生男子
二人」そして両日のべ二十人の参加いただ
いた柳井中学校の皆さんに心より感謝申し
上げます。



まだまだこれから夏の行事



梅雨が明けたと思ったら、いきなりの猛暑にこの夏どこまで暑くなるんだろうとドキドキするこの頃。



でも白壁の町並みの夏の行事は目白押し。

昨年、第一回目とし行つて、好評이었다「白壁



の町並み清掃蜘蛛の巣取り」を今年も柳井中学校の学生ボランティアの皆さんが暑さに負けず取り組んでくれます。

日時は八月三日月曜日の午前中。みんな準備した長い竹竿の先にほうき草を付けたり、モップを取り付けたり、高い屋根の町屋にはトラックの荷台に乗ってお掃除したり。いろいろな工夫をしながら、町屋の壁に傷つけることのないように丁寧に蜘蛛の巣を払っていきます。

また八月十七日月曜日十一時ごろには二十六回目を迎える「八朔の船流し」を開催します。

「五穀豊穰」
「家内安全」
「学業成就」
などそれぞれの
思いを込め
て柳井中学校
の生徒皆さん
が舟を川面に
流します。

それぞれの
事業の報告は
次回のかわら
版で詳しくお
伝えします。

柳井の地図絵図

岸田稔明

第五十回 一万分二柳井町都市計画図

(昭和二十七年調査) その五 (柳井市蔵)

第四十六回から、柳井市都市計画課に保存されている「柳井町都市計画図」を取り上げているが、今回は柳井駅西側に焦点を当てる。

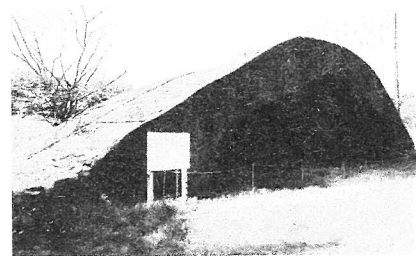
この地図は、昭和二十三(一九四八)年三月撮影空中写真を使って作成している。地図の右下には、「本図は戦災復興及び経済再建の為貸与された米国陸軍空中写真並びに地理調査所の三角点を測量の基準として柳井町役場の責任の下に協同測量社をして調製させたものである」という説明が書かれている。

使用された空中写真を見ると、柳井機関区から西側に一本の線が延び、途中に四角い区画が六つ見える。線は柳井機関区の造成時に埋立土を採取するため敷設された線路跡で、採取跡は後に国鉄官舎となった。六つある四角い区画

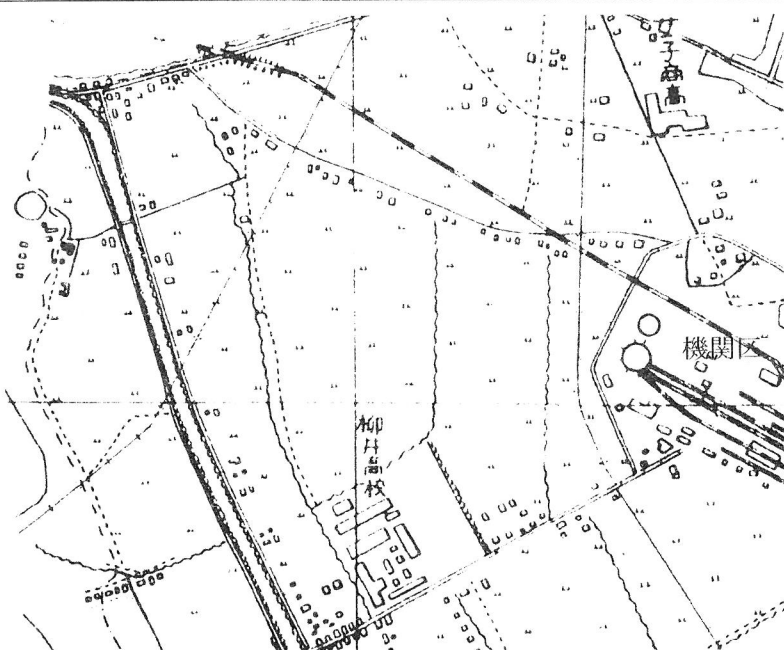


ある四角い区画

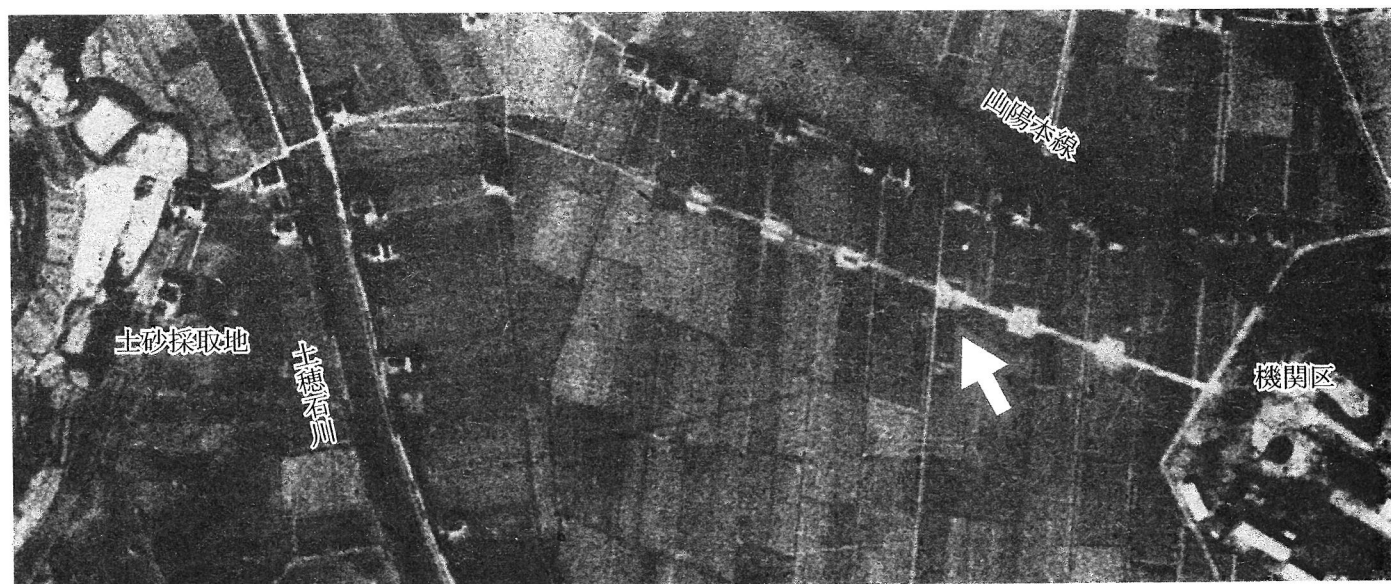
は、蒸気機関車^{えんたいどう}を空襲から守るためにつくられた掩体壕^{えんたいこう}の跡である。大分県佐伯市に戦闘機の掩体壕が保存されているが、似たようなものがあつたということになる。昭和二十七年(一九五二)年現地調査の時に線路と掩体壕が存在しなかったため、地図に描かれなかったものと思われる。



戦闘機の掩体壕 (大分県佐伯市の佐伯海軍航空隊跡地所在)



【柳井市都市計画図(昭和二十七年(一九五二)年現地調査、柳井市蔵)に加筆】



昭和23(1948)年米軍撮影空中写真(国土地理院蔵)を加工 ※矢印先端部分が線路と掩体壕の跡

商都柳井の歴史廿一

松島 幸夫

引き札3

しらかべ学遊館に展示してある「引き札」を紹介しています。1回目は回船業者を、2回目は呉服店を紹介しました。今回の3回目は酒醸造業と醤油醸造業です。両者ともに、財力が無ければ店を開けません。設備投資に膨大な資金が必要ですし、完璧な製品にするには高い技能を要したからです。米や大豆などの原料に麹(こうじ)菌を加えて発酵させるのですが、温度管理が上手くゆかなかったり、雑菌が混入したりして、順調に発酵しなかった場合には腐敗物になって、膨大な借金が残るのです。そうしたりスクを克服して、経営を軌道に乗せた醸造業者を取り上げましょう。



①弘田酒場
江戸時代や
明治時代に
華々しい繁栄
をした柳井津
には、当然の
ことながら



酒の醸造所
が幾つも存
在しまし
た。江戸時
代後期の天
保8年
の酒造場が

あつたとの記録が残っています。我々の記憶にある柳井の酒の銘柄は、久甫酒場の「菊男山」や皿田酒場の「旭壽」でしょう。さてここに紹介するのは、弘田酒場が配布した引き札です。「山に与」の印が店の紋でした。柳井津町内に醸造所がありました。琴石山や三ヶ嶽からの伏流水を使って、良質の清酒が作られました。清酒の銘は「君が世」です。

日清戦争や日露戦争になどによって、大日本帝国の軍事力と経済力が増進する状況にあつて付けられた銘なのでしょう。日本国を象徴する鶴と松を図柄にしています。お正月の初日に照らされながら子育てをしている鶴の家族を描いて、お得意様の各家庭が繁栄し、安泰であるように祈っています。

②加藤鉄之丞店

柳井の名産品である「甘露醤油」を生産する店の引き札です。明治時代の鉄道唱歌では柳井津について「♪風に糸よる柳井津の港に



ひびく産物
は甘露醤油
に柳井編か
らき浮世の塩
の味」と歌っ
ています。柳
井は醤油醸造

が盛んで、幕末に7軒の醸造所があつたと記録されています。中でも高級品である「甘露醤油」は人気を博していました。二度仕込み醤油で、芳醇な香りがあり、まるやかな舌ざわりが特徴です。甘露醤油を最初に造ったのは高田伝兵衛で、吉川の殿様に献上したところ「これは甘露。甘露！」と絶賛されたことよって「甘露」の銘を冠したと言われています。

さてここに載せた引き札は、大野屋の屋号を掲げる加藤鉄之丞醤油醸造店のものです。「角に吉」の印を商標とし、柳井津本町で醸造業を営んでいました。第三回の国内勸業博覧会に出品し、褒状を賜ったと記しています。左上にコウモリを描いて、各家庭の「幸盛り」「幸守り」を祈っています。さらには右下に神の使いである鹿を描いて、神を信仰しながら誠実な経営をするとの方針を示しています

資料館便り

心躍る「夏祭り！」

岸永啓子

異常気象がもたらす厳しい日常に怖い思いをされていることでしょう。

六月に入り、七夕祭りがやって来ました。竹伐採の収集人数の不足、雨で落ちたり、消えたりする飾り物。そのような心配事をなくすために、今年からポリエステル製の竹木(鉄のスタンド)を利用することになりました。市内の保育園、幼稚園から届けられたたくさんさんの飾り物や短冊を吊るしました。柳井中学校の生徒さんの手伝いが大きな助けでした。今年「町並み資料館」と「やない西藏」にて屋内展示しました。夕方には親子で見物に来て、写真を撮っておられました。八月には待ちに待った「金魚ちょうちん祭り」がやって来ます。もう町中金魚だらけです。今年初めて柳井の「金魚ねぷた」と「弘前ねぷた」が同時運行することの事。大変楽しみです。

当日、資料館は案内、授乳室、救護所、トイレ、金魚ちょうちん団扇配布所として協力します。「お鐘金魚」も待つてますよ。

また四月中旬にBS民放で「松島詩子さん」の特番が放送されました。ゲストの息子さんの詳しいお話から松島さんの真面目で努力家の姿を改めて感じ取り、一人でも多くの方に町並み資料館二階の「松島詩子記念館」を訪れてほしいと思いました。放送翌日には番組をご覧になった方が記念館を来訪され、感謝しました。

今後とも来柳された方に、ゆったり、ほのぼのと柳井の町並みを散策していただけるように頑張ります。



【編集後記】

★七夕飾りの場所が変更となり、どう受け止められるだろうと思っていましたが、ふたを開けてみれば、中本さんの記事の様に2施設が大変華やかになりました。白壁の町並みに飾られるのも素敵ですが、この時期は雨がつきもの。飾りが濡れ、地面に落ちてしまうこともありましたが、例年は雨に打たれる短冊を見るたび祈る思いでしたが、今年はその心配は無用でした。また皿田邸前にも恒例の笹竹が姿を現し、こちらも色んな短冊で彩られました。これも町並みを灯す「実践の積み重ね」の一つですね。★活動指針について、「益」という漢字の意味を調べてみると「もうけ」の前に「ためになる、役に立つ」と説明がありました。周囲に有益なことには利益がついてくる、なるほどと膝を叩きました。余り単純なことは言えませんが、地域の役に立つということが守られていくことにも繋がっていくのかも知れません。新たにご入会された方々と共に「増益」しましょう。

(事務局 熊谷)

令和8年度第1四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和8年/4月~6月	令和8年6月現在累計
町並み資料館	4,658	354,560
	前年同期比 125%	
松島詩子記念館	1,171	121,646
	前年同期比 134.2%	